



教育委員による学校訪問



7月17日(火)、教育委員が市内学校訪問を行いました。宇佐中、宇佐小、西馬城小、北馬城小の4校を訪問し、授業や学校施設の視察、教職員との意見交換会を行い、児童・生徒の様子や学校が抱えている課題などについて意見交換しました。また、北馬城小では、教室で児童とともに給食を試食し、学校生活などについて話しながら、楽しい給食時間を過ごしました。教育委員による学校訪問は、学期ごとに年3回行われ、およそ3年間で市内の小中学校を一巡するスケジュールで行われています。



教科書展示会視察



渡網ギャラリー視察

6月27日(水)、定例教育委員会終了後、市民図書館エントランスで平成31年度の教科書選定の教科書展示会を視察しました。展示会では、学校教育課長からの説明を聞きながら、各社の教科書の記述の違い等について、意見交換しました。その後、渡網記念ギャラリーを視察しました。渡網記念ギャラリーは宇佐市の名誉市民第1号となられた渡網雄氏(1896～1983)からいただいた寄附金をもって、宇佐市民図書館に併設されたものです。

新教育委員です！



任期満了に伴い、市教育委員に古里万里子(ふるさとまりこ)氏(63)～麻生・元糸口小学校長～が任命されました。任期は平成30年5月28日から4年間となっています。

第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会

第20回 横光利一俳句大会表彰式&夏井いつき句会ライブ

日時：平成30年11月24日(土) 13:30～

場所：ウサノピア大ホール

第1部 第20回横光利一俳句大会表彰式 13:30～14:30

この俳句大会は、宇佐市ゆかりの作家・横光利一を顕彰するとともに、俳句を通して地域の文化発展を願い、毎年開催されています。特に、第20回目の節目にあたる今回は「国民文化祭」の一環として行い、「俳句にチャレンジ！」をサブテーマに全国より広く募集した俳句を浅井慎平氏、野中亮介氏が選んだ入賞句を表彰します。また、選者による対談形式の講評も行います。

第2部 夏井いつき句会ライブ …楽しくないと俳句じゃない！100年俳句計画… 14:30～16:00(予定)

句会ライブはたくさんの人たちと一緒に楽しむための新しい句会の形です。俳句なんて絶対作れないと信じている人でも、「取り合わせ」という技を一つ覚えれば、5分で一句作ることができ、小学生から大人まで、幅広い年代の方にお楽しみいただけます。笑いあり、感動ありの句会ライブであり、夏井先生のテレビの裏話も聞けます。皆様、お誘いあわせの上、ご参加ください。



浅井慎平氏

昭和12年、愛知県生まれ。写真家、俳人。写真家としては、ビートルズ来日時の写真集や三和酒類「いいちこ」の広告写真などで知られる。句集に『二十世紀最終汽笛』、『冬の阿修羅』『哀しみを撃て』など。平成27年、西東三鬼賞受賞。



野中亮介氏

昭和33年、福岡県生まれ。俳人。「馬酔木」同人。水原秋櫻子に師事。著書に句集『風の木』(平成13年、俳人協会新人賞)、鑑賞読本『俳句こころ遊び』など。「よみうり西部俳壇」選者。俳誌『花鶏(あとり)』主宰。



夏井いつき氏

昭和32年、愛媛県生まれ。松山市在住。8年間の中学校国語教諭を経て、俳人へ転身。俳句集団「いつき組」組長。MBS「プレバト!!!」俳句コーナーほか。出演番組多数。松山市公式俳句サイト「俳句ポスト365」選者。

教育長室より

この度、「宇佐市教育委員会便り」に、新コーナー「教育長室より」を設けて、日々の仕事で感じたこと、新しい事業の意図、世の中のニュースや図書の感想、あるいは部署や職員の紹介などを扱っていきます。

今回は、「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」についてです。宇佐市では、今年度からすべての小・中学校において、これまでの学校評議員制度に代えて、学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールを導入しました。

宇佐市の小・中学校では、これまで学校評議員制度により改善を図ってきましたが、新しい制度は、より多くの人たち(保護者代表・地域の代表・地域学校協働活動推進員など)が集まって、学校のビジョン・課題・情報などを共有し、熟議し、意思を形成し、共通の目標に向けて、「子どもたちのため」に取り組む仕組みとなります。

全国的に人口減少や学校における働き方改革が課題になっている中、「登下校の見守りや通学路の安全確認」、「学校・地域の清掃活動」、「防災や防災ボランティアの訓練」などを、学校と各団体がパラバラに実施しているなら、あまり効率的ではありません。それにとどまらず、「農作物の収穫体験をしてほしい。地域では農業が盛んなことを実感してほしい」、あるいは「自社を訪問してもらい、市内の企業努力を知ってほしい。(進学等で一度は市外に出ても)将来市内で生計を立てる意識につなげてほしい」といった願いが、地域にはあります。これらは地域の方などに外部講師をしていただくのがより適任でしょう。

そういった地域のニーズを学校が子どもたちに身につけさせたい力として教育課程にどのように取り込むか、その一方で教職員の負担軽減のために地域・保護者へ何をお願いするか。今後は、そのマネジメントが校長をはじめ学校には求められます。保護者・地域そして教職員の皆様には「地域とともにある学校づくり」のため、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

オオサンショウウオの生態調査を行いました



宇佐市教育委員会のマスコットの「サンちゃん」



オオサンショウウオは国の特別天然記念物に指定されており、九州では宇佐市旧院内町が唯一の生息地とされています。



6月14日(木)、駅館川上流で院内中部小学校4年生12名がオオサンショウウオの生態調査を行いました。

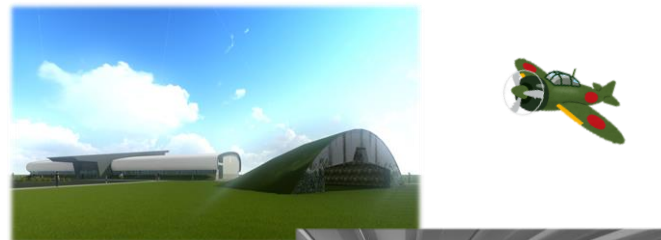
これは、地球未来科の地域学習の一環として行われており、当日はゲストティーチャーに余谷21世紀委員会の御堂了圓(みどうりょうえん)会長を迎え、オオサンショウウオについてのお話しをしていただきました。市社会教育課文化財係でもオオサンショウウオの調査をしており、同行し授業のサポートをしました。

食育体験！マテ貝採り



6月12日(火)、院内北部小学校5年生18名が食育体験として、和間海浜公園にてマテ貝採りを行いました。当日は快晴で心地よい浜風吹く絶好のマテ貝採り日和でした。地元のマテ貝採り名人や市林業水産課職員の協力により、大きなマテ貝をたくさん採ることができ、体験をした院内北部小学校5年生は大変よろこんでいました。また、名人から「採ったマテ貝を給食で食べることで、みなさんの身体の栄養となり、みなさんとマテ貝の命のつながりができます。給食を食べるときには、マテ貝や食材となっているものから命をもらっていることに感謝して、大切に食べてください。」という言葉をしていただき、有意義な食育体験となりました。採れたマテ貝は翌日の南部学校給食センターの学校給食「マテ貝のバター焼き」として、安心院・院内の小中学校に提供しました。

皆さんの集会や各種教室などにお邪魔します



平和ミュージアム(仮称)資料館の完成イメージ



平成32年度に宇佐市平和ミュージアム(仮称)資料館が開館することをご存じですか？どんな施設ができるの？展示の内容はどうなるの？今ある戦争遺構は整備されるの？そもそも「宇佐海軍航空隊」ってなに？皆さんが開催する集会などに職員が出向いて、事業の説明や意見交換をさせていただいています。宇佐市平和ミュージアム(仮称)構想についてご説明に伺いますので、ぜひお気軽にお申し込みください。

また宇佐市では、戦争関連資料を収集しています。資料の提供をしていただける方がいましたら、社会教育課(☎27-8200)までご連絡ください。

宇佐子ども体験教室を開級しました！

さまざまな体験活動を通して、社会教育の知識を学び、他校の子どもや地域の方とのふれあいを通じて、心豊かな感性を持った子どもを育てるために、毎年度宇佐子ども体験教室を開催しています。

6月23日(土)、9時より開級式を行い、自己紹介、レクリエーション活動をして、親睦を深めました。今年度は、市内12小学校の3・4年生31人が参加し、農泊、登山、料理体験など全8回にわたって活動します。



ラグビー日本代表戦を観戦しました！

6月9日(土)14:45キックオフ、大分銀行ドームで日本代表対イタリア代表のラグビーワールドカップテストマッチ(公式国際試合)が行われ、県内の小中高生が無料招待されました。

大分で日本代表の試合が開催されるのは今回が初で、

ラグビーの魅力に触れ、日本代表の活躍を間近でみることができた絶好の機会となりました。宇佐市からは児童生徒及び保護者総勢133人が観戦しました。試合は日本が34-17で快勝し、来年のワールドカップ日本大会を見据えた一戦で大きな期待が膨らみました。

